

【委員会における議論のポイント】

今回の格付け結果は、D評価が6名、F評価が2名となり、総じて低めの評価だった。

問題の原因を、SBISLの経営トップa氏の個人的要因に限定し、100%親会社であるSBIHDによる子会社管理の問題を調査スコープから外しており、ゆえに親会社の問題にまで遡った深度のある原因分析がなされておらず、それが実効性の乏しい再発防止提言にもつながっている点につき、すべての委員がマイナス評価をした。経営トップa氏に責任を押し付けて親会社を護ったもの、トカゲの尻尾切りとの指摘もある。

また、公表版とされる調査報告書が過度に匿名化されており、そもそも経営トップa氏の氏名・地位やA社の名称を匿名化する必要があったのかという疑問が呈されている。

さらに、委員及び補助者の独立性についても、少なくとも本件では、SBISLと利害関係を有していないだけでは足りず、SBIHDと利害関係を有していないことまで説明が求められたとの指摘がある。

他方で、新しい金融サービスであるソーシャルレンディング事業に内包されるリスクを明らかにした点で、一定の公共財的な価値があるとの指摘もある。

なお、第三者委員会報告書格付け委員会では、2014年11月に実施した第3回格付け（ノバルティスファーマ株式会社が設置した慢性骨髄性白血病治療薬の医師主導臨床研究であるSIGN研究に関する社外調査委員会が2014年4月2日に公表した調査報告書（公表版））においても、子会社が設置した第三者委員会が親会社による子会社管理の問題に踏み込まなくてよいのかという論点について議論した経緯がある。

今回の格付けは、その後のグループガバナンスの進展も踏まえて、すべての委員が親会社による子会社管理の問題に踏み込まなかったことをマイナス評価しており、この論点に関する議論の進展が見られたものといえる。

以上